

尼崎の「事故現場」

日本地方財政学会が大阪であり、早い時間の新幹線に乗り尼崎に向かった。あの 4 月 25 日の衝撃的な列車事故から 1 ヶ月以上が経過して、マスコミ報道も下火になりつつある。あの時から、「事故現場」をこの目で確かめたかった。

その機会がやっと訪れ、新大阪から新快速に乗り、ほんの 10 分ほどで尼崎に着いた。列車のなかで、車掌から「お詫び」が 3 回ほど繰り返された。尼崎の北口は再開発が進行中であり、高層マンションなどが立ち並んでいる。駅前を通り抜けて、とにかく JR 福知山線の線路をめがけて歩いた。途中で黒塗りの車が走っていくのが見えた。たぶん現場に向かうのだろうと考え、車の進行方向に向かって歩いた。駅から意外に遠かったが、なんとか「事故現場」に着いた。大きくカーブした線路のすぐ近くに、列車が激突したマンションがある。



この日の朝にマンション住民による追悼式があった。それでマスコミ関係者も多く来ていた。落ち着かない雰囲気であったが、あの時のことが思い出され、胸が締め付けられた。マンションの駐車場の柱には、激突した列車の衝撃の跡がはっきり残っていた。新聞やテレビを通じて「事故現場」を見てきたが、やはり自分の目で確かめると実感がわいてくる。現場近くの工場の労働者たちが駆けつけ、懸命に救助活動したことなども思い出された。



(6月1日 記)